

# 自殺予防教育プログラム実施報告書

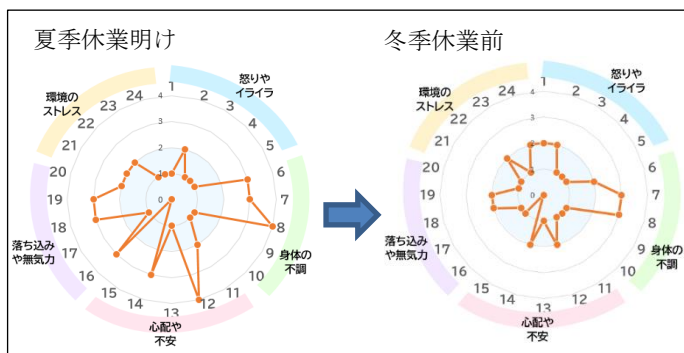
学校名	北海道礼文高等学校
-----	-----------

## (1) 教職員間の共通理解を図る研修等の実施

研修等の実施日	令和5年8月30日(水)	研修参加人数	14人
研修内容	学校として、生徒にどのような支援を行うかについて ・事例検討を通じて、可能な支援の在り方についての意見を数多く出し、試行していくことを共有した。 ・生徒が苦手としていることをどのように支援したらよいかについて共有した。		
研修に参加した教職員の声	・小規模校のため、ほとんどの教員が授業等ですべての生徒と接点がある。担任だけに抱え込まず、多くの教員が関わる中で、生徒にとって頼ることができる教員を増やしていくことができれば状況を改善できるのではないかと。 ・短期的に支援目標の見直しを行いながら、出来たことは次の段階へ、出来なかったことは前の段階へ調整することなどが必要である。		
研修等で使用した資料名	・「個別の支援計画」より抜粋した資料 ・文部科学省「子供の自殺が起きたときの緊急対応の手引き」(2010) ・警察庁・厚生労働省「令和3年中における自殺の状況」(2022)より抜粋した資料		

## (2) 「自殺予防教育プログラム」の実施

実施状況(主な実施内容、アセスメントツール等による生徒の変容、生徒の感想等)	
A 援助希求的 態度の 育成	<p>○ 実践の概要(目的、対象学年、実施教科等、実践者、指導内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>困ったときに援助を求める経験を積み重ねることを目指し、第1学年数学(数学I・数学A)の授業で、言語活動を積極的に取り入れた。問題演習の際に、不明な点をTTで指導に当たる教員だけでなく、周囲の友人に質問するよう働き掛け、教え合う関係を築いた。</li> </ul> <p>○ 生徒の変容を促す工夫(授業における工夫、他教科等との関連、事前・事後指導、外部人材の活用など)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>TTによるきめ細かい支援だけでなく、LHR等でアサーティブなコミュニケーションについて学習し、相談しやすく、困ったときに支援を求められる環境を平素から作るようにした。</li> <li>学年団で分担して、頻繁に個人面談を実施し、「何に困っているか分からない」状況から困り感に気付かせることで、援助希求的態度の育成に向けた支援を行った。</li> </ul> <p>○ 生徒の変容(アセスメントツール「ほっと」等による生徒の変容)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談をすることで不満を言語化し、感情を整理できたことで、取り巻く状況に変化がなくてもストレスを軽減できるようになった。</li> </ul> <p>○ 生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達には、分からないところを聞きに行きやすいのでよい。</li> <li>普通に質問する時は、手を挙げなければいけないから緊張するけど、周りの人に聞いてよいから「分からない」と言いやすい。</li> </ul>



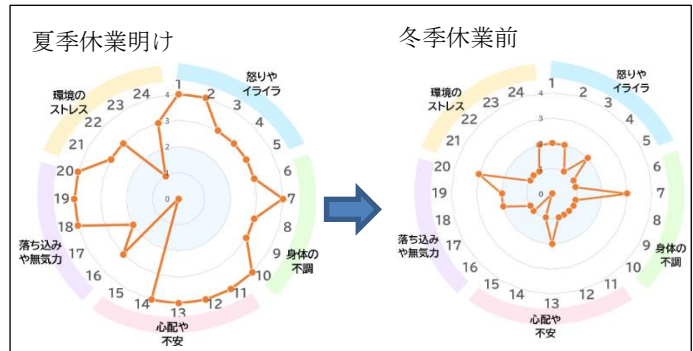
B 早期の問題認識（心の健康）

- 実践の概要
  - ・相互に尊重し合う関係の構築と発展を目指して、3学年現代社会の授業で、日本国憲法の人権保障に関する学習の中で、すべての人がその背景に関わらず尊重されるべきであることを再確認し、自己の日常生活について振り返らせた。



- 生徒の変容を促す工夫
  - ・入学時点から多様な生徒層であるため、一貫して学級目標に他者への配慮を掲げており、これと実社会との連続性を生徒に意識させるよう努めた。
  - ・第3学年の現代文で夏目漱石の『こころ』を扱い、登場人物の心情をグループで深掘りして人間の弱さや自己中心性について探究し、心理的危機が誰にでも起こると自分で気付けるよう工夫した。

- 生徒の変容
  - ・人間関係のストレスや、一人では対処できない問題を抱えることは誰にでも起こり得ることから、他者に対する配慮の重要性を再認識することで、進路希望の実現という目標に向け生徒同士が協力し合うことが出来た。



- 生徒の感想
  - ・すべての人が幸せになる権利があるし、尊重されないといけないから、配慮は大切だと思った。
  - ・『こころ』の「私」は嫌な人に見えるけど、自分も同じ状況ならば、そのようにすると思った。

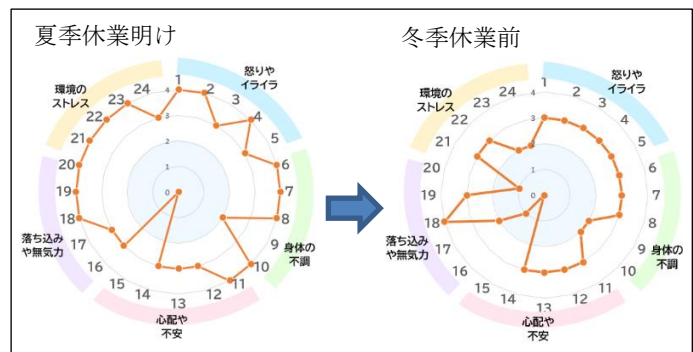
C ストレス対処能力の育成

- 実践の概要
  - ・物事がうまくいかないときのストレス対処能力の向上を目指し、2学年を中心にすべての学年で体育の授業においてチーム(グループ)で話し合う時間を取り入れた。バレーボールのゲーム後にチーム内で課題を共有し、課題解決のための基礎練習を取り入れたことで、ゲームの質が向上し、得意な生徒も不得意な生徒も上達を実感できた。



- 生徒の変容を促す工夫
  - ・個人用とチーム用のワークシートで振り返り、それぞれの課題を明確にして基礎練習を行った。
  - ・失敗してもプレーに関わったことを肯定することで、プレーに参加しやすい雰囲気を醸成した。

- 生徒の変容
  - ・ボールスポーツが苦手でプレーに関わろうとしなかった生徒が、次第に参加するようになった。また、言語活動によりゲーム中の声掛けも増え、相互にカバーし合うようになったことで、ゲームのレベルが向上した。



- 生徒の感想
  - ・(12月の体育大会後に)スパイクができるようになった。うまくなっている感じがして楽しい。
  - ・失敗しても変な雰囲気にならないようになったので、思い切って出来る。